

〔第 143 回銀行業務検定試験〕
 「窓口セールス 3 級」団体最優秀賞受賞
 「法務 2 級」「財務 2 級」「金融経済 3 級」「事業性評価 3 級」団体優秀賞受賞

百五銀行

～「主体的に学び、考え、前進する行員」を育成する～

今回は、去る 2019 年 6 月 2 日に実施された第 143 回銀行業務検定試験の「窓口セールス 3 級」において団体最優秀賞、「法務 2 級」「財務 2 級」「金融経済 3 級」「事業性評価 3 級」において団体優秀賞を受賞された、百五銀行へ伺いました。

百五銀行は 1878 年の創立以来、約 140 年受け継がれてきた「堅実経営」をはじめとした良き伝統を大切にしながら、地域とともに着実に成長・進化することをめざして、新しい分野・業務に積極的に取り組んでいます。今回、快く取材に応じてくださいましたのは、人事部人材開発課長の渡邊文稔わたなべふみとしさんと、同課長代理の下村紳也しもむらしんやさんです。

——今回、貴行では「窓口セールス 3 級」で団体最優秀賞をはじめ、多くの種目で優秀な成績をおさめられました。この結果をどう捉えていますか。また、銀行業務検定試験を、研修体系上どのように位置づけていますか。

当行では、新入行員は、基礎知識が習得できる「法務」「財務」「税務」の 3 級を年間のスケジュールに組み込んで全員が受験しています。知識を業

務に活かせる銀行業務検定試験なので、これらの種目を取得したら、他の種目、上位レベルにチャレンジするように、検定試験を人事制度における自己啓発ポイントの対象にしています。

今回のように「窓口セールス 3 級」などで最優秀賞・優秀賞を受賞できたのは、担当している業務に関わる種目については自発的に勉強し、試験を受験していこうという風土があり、先輩行員達から受け継がれているからだと思います。またポイントについても、それぞれの年次に応じて取得目安がありますが、目安自体はそれほど厳しいものではなく、取得目安量の 2～3 倍近くを取得している行員もいます。行員の中には、業務に活かせる未受験の試験があれば機会があるたびにチャレンジしていこうという共通認識があるために、優秀賞の受賞につながったのではないかと思います。



▲ 2015 年竣工の本店ビル岩田本店棟



▲ 同じく 2015 年竣工の丸之内本部棟

——団体受験をされた理由を教えてください。

当行では自己啓発において重要であると判断した検定試験については、年間のスケジュールに組んで、団体受験としており、業務の基礎につながるものや、コンサルティングにつながるものを幅広く推奨しています。受験する種目については、人事部で指示するようなことはなく、各行員が自分の業務との関連や問題意識から自由に選択できるようになっています。いくつかの種目で団体受験し、優秀賞を受賞できたのも、行員が自ら考えて受験した結果といえます。

——受験対策として、受験者はどのような学習方法をとられましたか。

基本的には、受験者による自主学習の方法で、問題解説集などを繰り返し勉強していたようです。ただ、当行のテレビ会議システムを利用して、新たな税制や年金制度についての勉強会を実施していますので、受験者の中にはこれを活用した者もいると思います。

——現在注力している業務について教えてください。

当行は、2019年度より策定された新中期経営計画「KAI-KAKU 150 1st STAGE『未来へのとびら』」において、長期のビジョンとして「デジタル&コンサルティングバンク」を掲げており、コンサルティング能力向上に力をいれています。人材開発課としては、銀行業務検定のほかにCFPやFP技能士、中小企業診断士などの資格をもつ“プロフェッショナル人材”を300人規模に増加させるという目標があります。休日講義やWeb講義を含めた特別な学習プログラムの提供等も行い、コンサルティングに必要な専門性をもったプロフェッショナル人材の養成に取り組んでいます。

——最後に、貴行の人材育成の考え方や求める人材像についてお聞かせください。

世代的な教育を考えると、若手行員については



▲人事部人材開発課長・渡邊文穂さん（下左）、同課長代理・下村紳也さん（下右）、同課・伊東朋香さん（上左）、同課・中里紘子さん（上右）

基礎をしっかりと固めて専門性の基盤となるように、また中堅行員については培ってきた専門性の強化につながるように、ということ意識した研修体系となっています。対象を絞らない全体向けの研修は、どうしても一般的な内容になりがちで、個別の業務に対応する専門性を身につけることは容易ではありません。

そこで、自己啓発を推奨するだけでなく、ビジネススキルや業務につながる専門知識の習得をするための休日セミナーなどを実施することによって、個々の業務に精通した専門性の高い人材を育成できるようにしています。

当行の研修所の入り口には、「STUDY THINK ADVANCE」と書かれたブロンズの盾が掲げられています。そのように、「主体的に学び、考え、前進する行員」を育成することが人材育成の基本方針です。言われたから行動するというのではなく、幅広い人々とコミュニケーションをとりながら、自ら考えて行動に移せる行員を育成したいと考えています。

また、長期的に当行が求める人材像としては、「高いモラルと豊かな発想で行動する自立した企業人」ということがあります。良識ある社会人として誠実に行動することが、地域で信頼される銀行員として重要なことだと思っています。

（お忙しいなか、取材にご協力いただきました渡邊さんと下村さんには心から感謝申し上げます）